

第1回役員会

バラ満開の京都府立植物園会館にて開催

今年度の、全史料協第1回役員会は、5月18日にバラの花が咲き誇る京都府立植物園会館で開催された。

当日の出席者は荻布会長以下17名（欠席者5名）、オブザーバーとして14名が同席した。以下、会議の概要を報告しよう。

第17期（平成19、20年度）役員等の選任、平成18年度事業報告及び決算報告、同監査報告、平成19年度事業計画案及び予算案については若干の修正を経てすべて了承された。

ついで、全史料協の新組織体制及び移行計画について、オブザーバー参加の愛知県の柴山氏（前総務委員会）から、「組織・業務改善計画書（案）」の説明が行われ、その後活発な議論が行われた。

おもな意見としては、「委員会の組織再編にあたっては、経費削減の実現とともに、これまでの経過もふまえ、混乱や支障のないような配慮が必要である」、「総務委員会を廃止して、会長事務局に統合するという案は、問題があるのではないか。会長事務局の引き受け手の確保が課題になっており、事務量の分

散に配慮すべきである」、「業務や経費の節減・縮小の中でも、全史料協として必要な役割は果たせるような配慮が必要である」等が出された。

これに対し、「計画（案）」は、持続的な全史料協活動を支える上で不可欠のものであるので、役員会として基本的に了承する」、「組織・業務改善計画の検討・策定を進めるにあたっては、本役員会の意見及び今後一般会員から聴取する意見を集約し、実現性・実効性の確保に最大限の配慮を行う」、「個別具体的レベルの課題については、組織・業務改善計画策定後、集中的に検討を進める」という確認が行われた。

引き続き、「アーカイブズ関係機関協議会（仮称）」の参加について、平成19年3月6日開催の同協議会事前調整会議（第3回）に陪席された辻前副会長から、経過及び会議の概要について説明が行われ、協議に入った。大勢を占めた意見は次のようであった。

「もとより、アーカイブズ関係機関が会同

する場に、全史料協が参加する意義を否定するものではない。しかし、全史料協の現状では、持ち回りとされる事務局を引き受けるのは困難である」、「参加が困難という理由だけでは、全史料協の信頼を失うことも考えられる。当面は陪席で参加するのが現実的である」

付記しておく、この協議の結果を受けた荻布会長が、5月23日に開催（於、国立公文書館）された、同協議会設立会合にオブザーバーとして出席された。この関連記事については、委員会レター（19頁）と全史料協ホームページを参照されたい。

このほか、委員会で要望等が出されたものとして、各委員会委員への委嘱状の発行を会長事務局で一本化して欲しいという意見が

あった。この件は了承された。また、予算編成について、各委員会及び事務局内での「流用」を認める、という全史料協の緩やかな「慣行」(?)について「予算編成を行う意味がないのではないか」という意見も出されたが、特に問題とはならなかった。

しかし、今回提案された「組織・業務改善計画書（案）」の中でも、6委員会の中で、委員会参加の旅費を負担しているところと、そうでないところがあることが指摘されている。筆者には、こういったことが全史料協の現状を端的に表しているような気がしてならない。不公平感のない健全な組織運営のために、機構改革がなされるのが肝要だろう。

〔鳥取県立公文書館 伊藤〕